

素案とりまとめまでの経過

■第1回 公共交通ワーキング

日 時：令和3年4月12日（月）

参加者：吉田委員、宮城交通株式会社、仙台市交通局、公共交通推進課

内 容：現状と課題のとりまとめ状況の報告、計画策定に向けた今後の進め方

■第2回 公共交通ワーキング

日 時：令和3年5月25日（火）

参加者：吉田委員、宮城交通株式会社、仙台市交通局、公共交通推進課

内 容：公共交通ネットワークの検討、市内バス路線の分類・整理、取組施策の検討

■第3回 公共交通ワーキング

日 時：令和3年7月2日（金）

参加者：吉田委員、宮城交通株式会社、仙台市交通局、公共交通推進課

内 容：現状と課題のとりまとめに対する意見と対応、公共交通ネットワークの検討、サービス水準の検討及び方向性の整理、取組施策の検討

■第4回 公共交通ワーキング

日 時：令和3年7月28日（水）

参加者：吉田委員、宮城交通株式会社、仙台市交通局、公共交通推進課

内 容：地域公共交通計画素案の検討、公共交通ネットワークの検討、サービス水準の検討



仙台市地域公共交通計画(素案)のとりまとめ

第2回協議会でいただいたご意見 (協議会後の書面含む)	対応
今後の少子高齢化の進展に伴い、交通需要のダイナミックな変化も考えられる。需要の変化の見直しはどのように考えているか。	【素案 p1-2】 今後の社会情勢の変化や需要の変化に応じて、その都度協議を経て計画の見直しを考えている。
<p>4) 観光</p> <p>ここでは、本市の宿泊者数の推移が示され、近年増加が著しい海外からの宿泊者も内数として含まれている。</p> <p>現在、コロナ禍で一時的にインバウンド（海外からの来訪者）は激減しているが、国は2030年にインバウンド6千万人（2019年実績の約2倍）を目標に掲げており、コロナ収束後急速に増加することが予想される。従って、外国人来訪者にとって利用しやすい移動手段の確保は重要な課題となってくるとの考えから、<u>現行の宿泊者の推移のグラフに加えて、外国人宿泊者の推移のグラフを追加し、現状認識の一助とすべきと考える。</u></p>	【素案 p7-8】 いただいた意見に基づき修正しました。
<p>4) 観光</p> <p>表3-1の主要な観光地・施設と公共交通によるアクセス状況について</p> <p><u>施設名に、泉ヶ岳、震災遺構仙台市立荒浜小学校の2か所を追加すべきと考える。</u></p> <p>理由) 泉ヶ岳は従来から仙台市民の憩いの場であったが、それに加えて、近年「自然ふれあい館」や「スプリングバレースキー場」の整備などもあり、今後体験ツーリズムの拠点としても注目される場所となりうるものと考えられる。年間20万人程度の入込数がある。</p> <p>また、東日本大震災以降、教育旅行を中心として震災を学ぶ体験学習旅行が注目されており、荒浜小学校は本市における拠点施設として、ここ数年8万人程度の訪問実績がある。</p>	【素案 p7-9】 いただいた意見に基づき修正しました。